

令和7年度 中学生の「税についての作文」

日本税理士会連合会 会長賞

「私」+「税」=「未来」

横浜市立 あらみ野中学校 第三学年 固崎 智子



六%が道路の整備やまちづくりのために使われていると知った。税は私たちの生活を支えている、とよく言われる。頭では理解していたつもりだったが、私たちが納めた税が巡り巡って私たちのために使われる、という循環の重要性を改めて見せつけられた気がした。

小学生の時に、「はるか昔から現在まで、ずっと残り続けているものを調べよう」と二つの課題が出た。案外見つからず、長く聞かれてみてもなかなか思いつかない。黒板に書かれた皆の解答もわずかだ。そんな中、ひときわ目立っていた解答が『税』だった。税とは形を変えつつ、千年以上の時を経てつながっているのだと知り、とても驚いたことを、先日の歴史の授業で人々に思い出した。

今の世の中には税にまつわる様々な意見がある。その中には批判的なものも、もある。批判的なものの方が多いと聞いたほうが正確かもしれない。しかも一口に税といっても、非常に多くの種類がある。最も身近な税は、やはり消費税だろう。調べてみて実はその他にも、国税の「森林環境税」、神奈川県の「水源環境保全税」、そして私が住む横浜市の「横浜みどり税」等があると知った。そのため、横浜市は特に税金が多い都市と思われている。あまり税を意識したことがなかったからこそ、衝撃を受け、なぜこんなに税を納めなくてはならないのか、疑問に思った。

「」調べてみると、神奈川県の歳出総額のうち、約二十一%も教育費が占めていると知った。その他にも、約十七%が福祉や子育てのために、約十%が健康や介護ために、ついで約十%が安全な生活を守るために、約

心で安全な生活を送るという「権利」があるのだ。大人になつたら、やつともっと税を意識する時があるだろう。やつした時に、「私のお金から税を納めるのは嫌だ」と考へるのはなく、「この税で、私たちはどういうメリットを得られるだろう」と「権利」にも目を向けることで、自然と自分が社会に生きる意義や働くことの大切さが理解できるようになる、税に夢や希望を託せるようになるのだと思つ。

そして、やつ一つ大切なことは、私たち自身の社会において困っているところ、改善したことのうを積極的に国等に発信してほしいだらう。今は選挙のみならず、議論への参加や議会の傍聴等、政治にうなづくの機会が私たちに門戸を開いて待つている。今しゃ、世論に興味をもつて、やつした機会をつかみ、政治参加への一歩を踏み出し、税についてやつと増えしていくべきなのだ。

私たちが税を納めることで社会を支え、税が様々な公共サービスを提供することで私たちを支える。大人になつたらどう考へて積極的に政治に参加して、税を納めたい。そして税のあり方、私のあり方を考え続けたい。

